株主メモ

- 事　業　年　度　毎年4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会　毎年6月
- 基　　準　　日　定時株主総会・期末配当：毎年3月31日
  中間配当：毎年9月30日
- 株主名簿管理人　東京都港区芝三丁目33番1号
  中央三井信託銀行株式会社
- 同事務取扱場所　愛知県名古屋市中区栄三丁目15番33号
  中央三井信託銀行株式会社 名古屋支店 証券代行部
- 郵便物送付先　〒168-0063　東京都杉並区和泉二丁目8番4号
  中央三井信託銀行株式会社　証券代行部
- 電話照会先　0120-78-2031（フリーダイヤル）
- 同 取 次 窓 口　中央三井信託銀行株式会社　本店及び全国各支店
  日本証券代行株式会社　本店及び全国各支店
- 単 元 株 式 数　100株
- 証 券 コ ー ド　7266（東京・名古屋証券取引所市場第一部）

住所変更、単元未満株式の買取のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。

未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。

「配当金計算書」について

配当金支払いの際、送付している「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。
＊確定申告をなされる株主様は、大切に保管ください。

IMASEN
ELECTRIC INDUSTRIAL CO., LTD.

ホームページのご紹介

当社及びグループ会社の概要・財務・製品・採用・決算等の最新情報につきましては、ホームページにてご案内しております。
ぜひ、下記アドレスまでアクセスしていただきますようご案内申しあげます。

URL http://www.imasen.co.jp/

株主の皆様の声をお聞かせください

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記ＵＲＬにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

http://www.e-kabunushi.com
アクセスコード 7266

いいかぶ　検索

Yahoo!、MSN、exciteのサイト内にある検索窓に、いいかぶと4文字入れて検索してください。

空メールによりURL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)
アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝（図書カード500円）を進呈させていただきます

※本アンケートは、株式会社エーツーメディアの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社エーツーメディアについての詳細 http://www.a2media.co.jp) ※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただき、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」　TEL:03-5777-3900（平日 10:00～17:30）
MAIL:info@e-kabunushi.com

VEGETABLE OIL INK
この報告書は、環境に配慮し、ベジタブルインクを使用しております。

証券コード　7266

IMASEN REPORT 10

第74期報告書

2010.4.1-2011.3.31

株式会社今仙電機製作所
〒484-8507　愛知県犬山市字柿畑 1 番地
TEL（0568）67-1211（代表）

株主の皆様へ

平素より格別のご高配を賜り厚くお礼申しあげます。
また、このたびの東日本大震災により被災された皆様に、謹んでお見舞い申しあげ、一日も早く復興されますよう心からお祈り申しあげます。
ここに第74期（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで）の事業の概況と決算をご報告申しあげます。

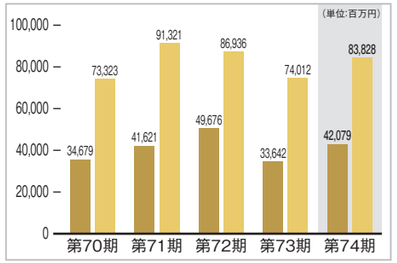
代表取締役会長　若山恭二

代表取締役社長　藤掛治

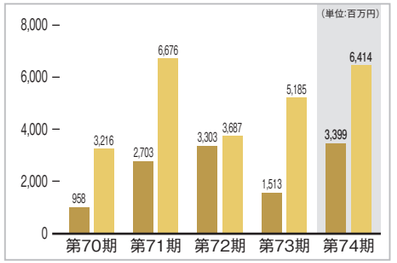
■決算ハイライト

震災の影響を受けた　ものの、増収増益を確保しました

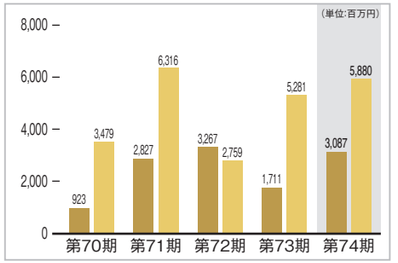
売上高　838億円
前期比 13.3%増加



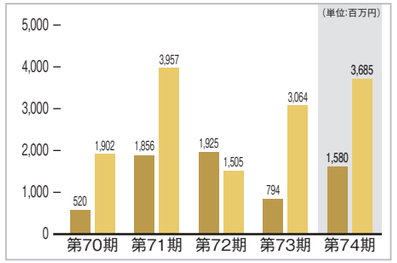
営業利益　64億円
前期比 23.7%増加



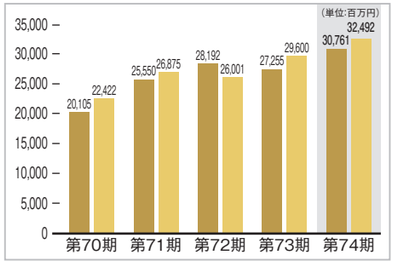
経常利益　58億円
前期比 11.3%増加



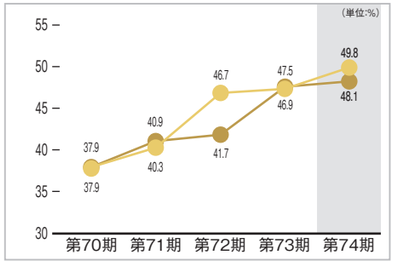
純利益　36億円
前期比 20.3%増加

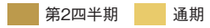


純資産　324億円
前期比 9.8%増加



自己資本比率　49.8%
前期比 2.9ポイント増加





経営理念

想像力を豊かにし、これをより安く、
これまでに存在しない全く新しい製品・サービスを創造し、より速く、世の中に提供することで、人々の豊かな暮らしに貢献いたします。

Contents

株主の皆様へ …… 1
決算ハイライト …… 1
トップインタビュー …… 3
トピックス …… 6
決算の状況（連結） …… 7
事業別営業の概況 …… 9
会社の概況 …… 10
株式情報 …… 10

特集企画「IMASENを知る」第6弾
トップインタビュー
新社長 藤掛 治に聞く「今後の経営方針について」

Profile
代表取締役社長
藤掛 治
Osamu Fujikake

昭和30年、岐阜県生まれの56歳。岐阜大学工学部卒業後、株式会社今仙電機製作所に入社。設計部門に配属され、担当職から設計部長に至るまで、一貫してシートアジャスタの開発を担当し、現在のIMASENを支える製品力の基礎を築くとともに、多くの得意先との関係強化に尽力。その後、栃木支店長（営業部長）、購買部長を歴任し、平成21年に取締役に就任し、購買本部長として原価低減に貢献する。平成23年6月に代表取締役社長に就任。
趣味は将棋・囲碁。最近は特に囲碁の勝負の行方が最後まで分からないところ、意外性に魅力を感じている。

Q 新社長就任にあたっての抱負は？

■経営者として、責任を持って収益を確保していく

上場企業として4,000名を超える株主様の期待を背負うこと、また、海外拠点も含めたグループ全体で約3,900名の従業員と、さらにはその家族の生活を支えることの重さを改めて実感しており、大きな責任を感じています。

リーマンショックからようやく立ち直りかけたところに、東日本大震災が発生し、経営環境としては非常に厳しい状況にありますが、まずは、経営者として、責任を持って収益を確保していかなければならないと考えています。

■IMASENの強み「お客様第一」の基本に立ち返る

IMASENは独立系自動車部品メーカーとして、多くのお客様に支えられて成長してきましたが、結果として現在は、本当に良いお客様に恵まれている、と感じています。これは、**IMASEN**において、「お客様第一」という考え方が、従業員の上から下まで浸透している成果であろうと考えています。こうした考え方が、お客様から信頼される一つの理由であり、**IMASEN**の強みであると考えていますので、この基本に改めて立ち返り、お客様との関係をより強固なものとしていきたいと考えています。

社内に対しては、全ての従業員が、「生まれ変わったとしても入社したい」または「自分の子供を入社させたい」と思えるような会社に、ぜひしていきたい。栃木支店に赴任していた8年間で、お客様の開発部門の方々と仕事をいたしましたが、皆さんがとても楽しそうに仕事をしていたことが非常に印象的でした。**IMASEN**でも、毎日、忙しい中でも、明るく、楽しく仕事をするためにどうしたら良いかということを考え、職務を全うしていきたいと考えています。

Q 中期経営計画「Proud 2nd Stage（Recovery 1-2-3）」に取り組んでいますが、進捗状況と今後の取り組みは？

■業績回復を楽観せず、将来に視点を向ける

現在取り組んでいる中期経営計画は、リーマンショックによる急激な市場の冷え込みにより売上が落ち込み、すぐには回復が進まないことを想定し、そうした中でも利益を確保できる体質作りをメインテーマとして策定したものです。2年前からスタートし、今期が最終年度となりますが、結果として、若山会長、増谷前社長のリードにより利益体質の改善が進んだことに加え、受注環境の好転もあり、利益の落ち込みを最低限にとどめ、前期も当初計画を上回る実績を上げることができましたので、業績にはある程度の達成感を持っています。

ただし、売上の回復は、どちらかというと自動車の販売の回復に支えられた面が大きく、必ずしも、**IMASEN**の市場シェアの拡がりや、新製品が数多く装備されたことだけによるものではありません。業績の回復に対して決して楽観することなく、より将来に視点を向けて、新製品の投入や新市場への参入を増やしていかなければならないと考えています。社長職と合わせて開発本部も担当しますが、開発・設計部門には、入社時より思い入れがありますので、在任中に、ぜひ一つでも多くのヒット製品を出したいと思っています。

今期は東日本大震災の影響もあり、経営計画の進捗への影響も不可避な状況ですが、リーマンショック後の緊急対応には区切りを付け、来期からはすっきりと新しい中長期経営計画を展開したいと考えています。企業として、自らの力で一層の成長ができるよう、私自身の想いを織り込んだ新しい経営計画を早急に取りまとめてまいります。

Q 東日本大震災の影響は？今後の災害対策は？

■人命第一、地域最優先を基本に、リスク対応の見直しを進める

まずは、今回の震災で被災された皆様には、心よりお見舞いを申しあげます。

IMASENにおきましては、栃木支店にて事務所設備の一部が損傷するなどの被害を受けたことから、事務所の移転をいたしましたが、幸いにも直接的な被害はこれのみであり、従業員の人的被害などもありませんでした。

しかしながら、新聞報道にもあるように、自動車産業への影響は甚大なものとなっています。自動車メーカー各社では、現在も大幅な生産調整が行われ、復旧にはまだまだ時間を要する見込みです。こうしたことから、**IMASEN**でも国内外の各生産拠点におきまして、大規模な生産調整を行っている状況です。

今期の業績への影響度につきましては、自動車メーカーの稼動状況に関する先行きが不透明なことから、予測が困難な状況となっています。見極めが可能となった段階で速やかに開示したいと考えています。

今回の震災におきましては、企業活動においても、人命第一、地域最優先、という気持ちを絶対に忘れてはいけない、ということを痛感させられました。こうした基本を前提として、万一への備えを見直してまいります。お客様あっての**IMASEN**であると、日頃から感じていますので、非常事態が起きた場合でも、すぐ対応ができるような生産・供給体制といった様々なリスク設定と対応を考え、お客様に迷惑をかけない体制の構築を目指してまいります。

Q 中国、米国にそれぞれ第2の生産拠点を準備中ですが、今後の海外展開については？

■慎重に見極め、必要な展開は迅速かつ大胆に意思決定する

世界最大の自動車市場となった中国をはじめとして、マーケットの成長性やコスト競争力を考えると、海外展開はやはり新興国が中心になるものと考えています。特に中国につきましては、既存の広州市（広東省）の拠点に加え、すでに発表のとおり、現在武漢市（湖北省）に新たな拠点を準備中であり、今後の増産への体制整備を進めていますが、他の地域のお客様への対応を拡げるためには、場合によっては、その近くに拠点を増やさないと、受注ができない可能性もあります。

だからといって、新拠点の設立は、投資だけでなく様々なリスクを伴いますので、簡単には判断できません。これまでにも増して慎重に、採算と今後の受注見通しの見極めを行う必要があるものと考えています。

少し前までは自動車メーカーの海外拠点近くに進出すれば受注をいただけるような状況もありましたが、世界中の自動車メーカーがグローバルでしのぎを削っており、それに追従する自動車部品メーカーも、品質、コストなど、あらゆる面で競争が激化しています。さらにその競争相手も国内の同業企業だけでなく、大きな数量背景を持った世界の巨大企業や、力を付けつつある新興国のローカル企業など、様々に拡がっています。

また、新興国における経済発展により、自動車の購買層の拡がりが予想されることに加え、環境ニーズなども背景となり、今後の自動車市場は、従来のような高級車でなく、利益率の低い小型車の需要がさらに増えてくるものと考えています。これによりコスト競争は一層厳しくなりますので、日本の自動車メーカーにおいても、現地のコスト競争に勝つためには、重要部品であっても日本製の部品を使わないメーカーも増えてくると思います。

このように、**IMASEN**をとりまく経営環境は、今後数年が大きな変化の年になるでしょう。こうした厳しい経営環境において、競争に勝ち残っていくためには、海外拠点のコスト競争力を活かして部品を集中生産し、グローバルに供給する体制をさらに進めていく、というような取り組みをこれまで以上に進めていく必要もあるものと考えています。

今回のインタビュアー
総務部人事教育課　倉知 誠（2006年 入社）
生産技術部生技管理課　松本 裕子（2006年 入社）

一方で、いかに競争相手が増え、力を付けようとも、**IMASEN**でしかできない技術を持ち続けていれば、必ず受注につながると思います。やはり開発力、品質力が重要であるものと考えます。

これらのことを総合的に判断し、今後の成長のために新しい展開が必要と判断した場合には、迅速かつ大胆に意思決定してまいります。

Q 株主・投資家に対する取り組みとしては？

■積極的なIR活動を継続、業績に応じて徐々に配当水準を高める

現在の**IMASEN**の株価は、市場環境の悪さもありますが、それを考慮しても業績、実態に対し、低い評価しかいただけていないものと考えています。

このような状況のなかで、増谷前社長により、積極的なIR活動を展開してまいりましたが、私もこうした取り組みを継続していく方針です。地道な取り組みではありますが、継続していくことが理解を深めていただく近道であると考えております。IRの場は不慣れではありますが、株主・投資家の皆様と対話できる場をできる限り準備していきたいと考えています。

株主還元策につきましても、前期は3円の増配（年間20円）を行いましたが、安定配当を意識しつつ、業績に応じて徐々に水準を高めていく、という従来の基本方針を継続していきたいと思います。

厳しい経営環境下ですが、始めに申しあげたとおり、まずは経営者として、責任を持って収益を確保していかなければならないと考えています。**IMASEN**に働く者一人ひとりがプロとして、会社のために良い仕事をすることで、結果として利益を増やし、株主の皆様のご期待に応えることができるものと思います。

Q 5年後、10年後の**IMASEN**は？達成したい目標と決意は？

■売上高1,000億円を目指す

変化の激しい世の中で、明日何が起こっても不思議のない昨今ですが、短期的な変化には惑わされることなく、先を見極める目を持ち、地に足をつけて、しっかりと事業に取り組むことで、着実な成長を目指していきたいと思います。

目標としては、まずは売上高1,000億円を達成したい。1,000億円はひとつの区切りであり、単なる目安と考えますが、決して簡単なハードルではないと捉えています。しかしながら、厳しい競争に勝ち残っていくためにはある程度の規模を持つことも必要であり、越えなければならないハードルと考えますので、在任中に何とか達成したいと思います。

その他にも色々と目標を設定したいと思いますが、もう少し社内で議論を重ね、全社で取り組む目標として、新しい中長期計画に織り込んでいきたいと思います。

■「温故知新」で**IMASEN**に新風を

私は座右の銘を「温故知新」としており、初めての事柄に対しては、先人の成功例や悪さ加減をよく分析したうえで、自分のやり方を見出していくようにしています。社長業も私にとって初めてのチャレンジですので、先輩方の取り組みのみならず、他社の優れた取り組みなども積極的に参考として、長い歴史を持つ**IMASEN**に、新しい風を吹き込みたいと思います。

■詳しくはwebで

今回のインタビューの内容は、**IMASEN**のホームページにより詳しく掲載されております。あわせてご覧ください。

http://www.imasen.co.jp/

トピックス

■連結子会社 ㈱今仙技術研究所の移転

IMASENの連結子会社「㈱今仙技術研究所」は、平成23年3月22日に所在地を移転いたしました。

㈱今仙技術研究所は、福祉機器の研究開発及び製造販売を行っておりますが、今後拡大が見込まれる福祉産業における一層の業務拡大と、研究開発強化のため、新社屋を建設し、移転するものであります。

新社屋は、福祉産業に携わる企業としてふさわしいバリアフリー構造としており、障がいのある方でも移動しやすく、働きやすい職場になっております。

屋上には、ソーラー発電パネルを設置し、ガラス面にエコフィルム、屋内照明の一部にLED照明を採用するなど、環境に配慮した設備を使用しています。

商　　号：株式会社今仙技術研究所
新所在地：岐阜県各務原市テクノプラザ
　　3丁目1番8号
T　E　L：058-379-2727
F　A　X：058-379-2726
代 表 者：代表取締役社長 鵜飼菊雄
資 本 金：20百万円

■「東日本大震災」へ義援金を寄贈

このたびの東日本大震災により被災された皆様には、心よりお見舞い申しあげます。

IMASENグループでは、被災された皆様の救援や被災地の復興に役立てていただくため、会社として義援金2,500万円を寄贈いたしました。また、これに加えて役員及び社員から義援金を募り、これをとりまとめて寄贈しております。

被災地域の一日も早い復興を心よりお祈り申しあげます。

■決算の状況（連結）

連結貸借対照表

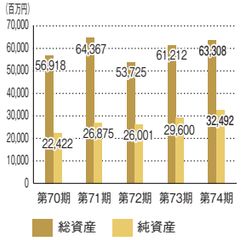
（単位：百万円）

科目 ＼ 年度別	前連結会計年度（平成22年3月31日）	当連結会計年度（平成23年3月31日）
【資産の部】		
流動資産	35,968	38,269
現金及び預金	9,564	9,825
受取手形及び売掛金	19,551	19,691
たな卸資産	4,928	5,963
その他	1,926	2,791
貸倒引当金	△2	△3
固定資産	25,244	25,038
有形固定資産	21,467	21,196
建物及び構築物（純額）	7,192	7,057
機械装置及び運搬具（純額）	6,515	5,621
その他（純額）	7,759	8,517
無形固定資産	356	344
その他	356	344
投資その他の資産	3,421	3,498
投資有価証券	3,100	3,280
その他	356	253
貸倒引当金	△35	△35
資産合計 POINT①・②	61,212	63,308

科目 ＼ 年度別	前連結会計年度（平成22年3月31日）	当連結会計年度（平成23年3月31日）
【負債の部】		
流動負債	22,966	23,982
支払手形及び買掛金	12,856	12,998
１年内償還予定の社債	167	500
短期借入金	2,774	3,332
未払法人税等	1,854	770
賞与引当金	1,086	1,147
その他	4,228	5,233
固定負債	8,645	6,833
社債	3,500	3,000
長期借入金	1,885	601
退職給付引当金	1,741	1,454
その他	1,519	1,776
負債合計	31,611	30,815
【純資産の部】		
株主資本	28,752	32,265
資本金	4,464	4,548
資本剰余金	4,197	4,281
利益剰余金	20,197	23,544
自己株式	△108	△108
その他の包括利益累計額	△46	△713
その他有価証券評価差額金	1,061	952
為替換算調整勘定	△1,108	△1,665
少数株主持分	895	939
純資産合計 POINT①・②	29,600	32,492
負債純資産合計	61,212	63,308

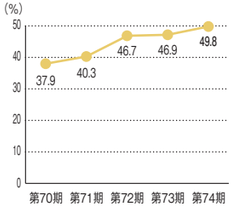
POINT① 総資産・純資産

受注回復に伴うたな卸資産の増加などにより、総資産は63,308百万円（前期比2,095百万円の増加）となりました。純資産につきましては、利益剰余金の増加などにより、32,492百万円（前期比2,891百万円の増加）となりました。なお、1株当たり純資産は1,757.08円となっております。



POINT② 自己資本比率

総資産・純資産ともに増加となりましたが、純資産の増加率がやや上回ったことから、自己資本比率は前期末から2.9ポイントの改善となる49.8%となりました。



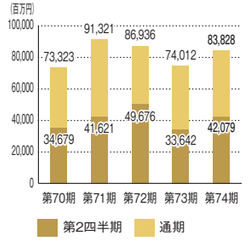
連結損益計算書

（単位：百万円）

科目 ＼ 年度別	前連結会計年度（平成21年4月1日から平成22年3月31日まで）	当連結会計年度（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで）
売上高 POINT③	74,012	83,828
売上原価	62,519	70,328
売上総利益	11,493	13,500
販売費及び一般管理費	6,307	7,086
営業利益 POINT④	5,185	6,414
営業外収益	327	271
営業外費用	231	805
経常利益	5,281	5,880
特別利益	27	53
特別損失	145	167
税金等調整前当期純利益	5,163	5,766
法人税、住民税及び事業税	2,138	2,063
法人税等調整額	△56	△54
少数株主損益調整前当期純利益	–	3,758
少数株主利益	17	72
当期純利益	3,064	3,685

POINT③ 売上高

主力の自動車部品関連事業におきまして、アジア地域を中心に、国内外における受注が回復してきたことにより、売上高は前期比で9,815百万円の増収となる83,828百万円となりました。



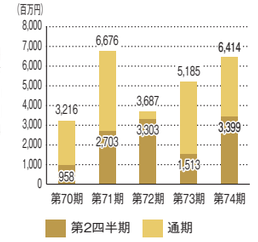
連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

（単位：百万円）

POINT⑤ 科目 ＼ 年度別	前連結会計年度（平成21年4月1日から平成22年3月31日まで）	当連結会計年度（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで）
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,955	5,635
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,019	△3,171
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,295	△2,019
現金及び現金同等物に係る換算差額	53	△202
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	4,694	242
現金及び現金同等物の期首残高	4,559	9,254
現金及び現金同等物の期末残高	9,254	9,496

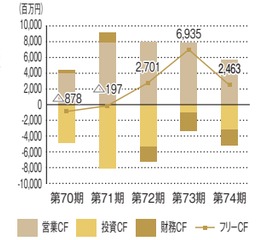
POINT④ 営業利益

円高で推移した為替の影響、原材料値上げなどといった収益圧迫要因がありましたが、売上高の回復と原価低減活動により、営業利益は、前期比で1,228百万円の増益となる6,414百万円となりました。



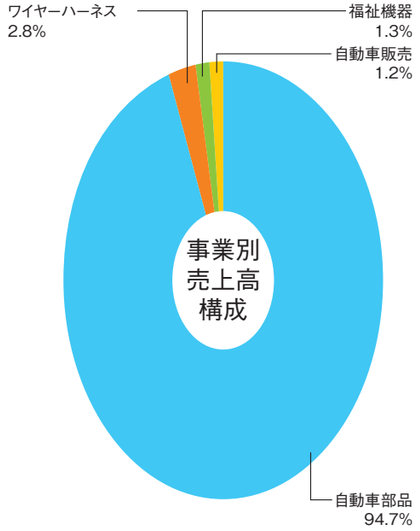
POINT⑤ フリーキャッシュ・フロー

法人税等の支払額の増加により、営業活動によるキャッシュ・フローが減少したほか、設備投資の増加に伴い、投資活動によるキャッシュ・フローが増加したことから、フリーキャッシュ・フローは2,463百万円となり、前期比で減少しております。



■事業別営業の概況

主力の自動車部品関連事業の収益改善が業績貢献しております



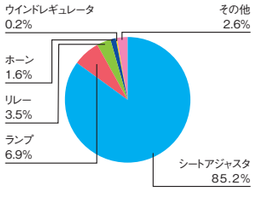
自動車部品関連事業

売上高（前期比）	79,375百万円（13.4%増）
営業利益（前期比）	6,246百万円（23.5%増）

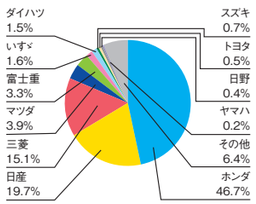
パワーシートアジャスタ

世界的な自動車減産の影響を受けた前期と比較し、タイにおいて大幅な受注回復となったほか、中国が引き続き好調を維持するなど、国内外において受注水準が回復しました。こうした増収効果に加え、原価低減活動を継続することにより、増益を確保しております。

■製品別売上高構成



■販売先系列別売上高構成



ワイヤーハーネス関連事業

売上高（前期比）	2,371百万円（20.9%増）
営業利益（前期比）	93百万円（－）

工作機械関連機器向けの受注が回復してきたことから増収となり、黒字回復しております。

福祉機器関連事業

売上高（前期比）	1,106百万円（1.3%減）
営業利益（前期比）	72百万円（48.0%減）

期初における電動車いすの販売減少により、減収減益となりました。

自動車販売関連事業

売上高（前期比）	975百万円（4.2%増）
営業損失（前期比）	△17百万円（－）

エコカー減税や補助金効果により、新車販売を中心に売上高はやや回復したものの、損失計上となりました。

■会社の概況（平成23年3月31日現在）

■会社の概要

社名	株式会社　今仙電機製作所 Imasen Electric Industrial Co.,Ltd.
設立	昭和14年2月1日
資本金	4,548百万円
主な事業内容	自動車用機構製品及び電装製品の製造・販売
従業員数	3,903名（連結）
本社所在地	愛知県犬山市字柿畑1番地
営業所	東京支店／広島支店／栃木支店
工場	名古屋工場／岐阜工場／八百津工場 岡山工場／春里工場／可児工場／広島工場 （株式会社九州イマセン）
海外拠点	台湾／フィリピン／米国／ 中国／タイ／インド

■役員（平成23年6月22日現在）

代表取締役会長	若山　恭二	取締役	中澤　哲則
代表取締役社長	藤掛　治	取締役	足立　隆
専務取締役	梅田　敏雄	取締役	佐々木　鉄二
常務取締役	植松　俊夫	常勤監査役	大澤　慶文
常務取締役	渡邉　和彦	常勤監査役	長屋　三平
常務取締役	中島　良紀	監査役	尾関　誠治
常務取締役	山田　博	監査役	宮澤　俊夫
取締役	阿部　隆行		
取締役	亀山　弘昌		

監査役尾関誠治氏及び宮澤俊夫氏は社外監査役であります。

■株式情報（平成23年3月31日現在）

■株式の状況

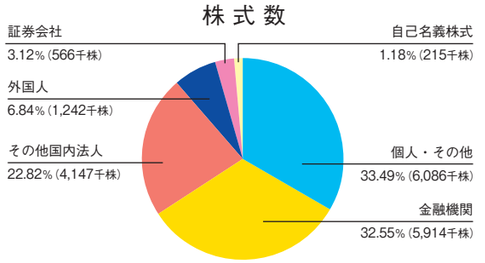
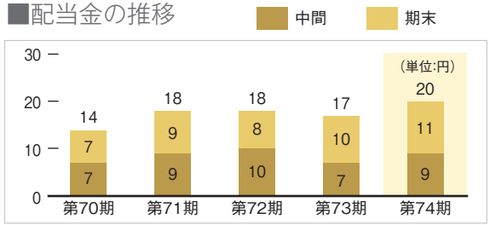
発行可能株式総数……49,195,000株
発行済株式の総数……18,172,737株
株主数……4,032名

■大株主（上位10名）

株主名	持株数（千株）	持株比率（%）
本田技研工業㈱	1,066	5.93
日本トラスティ・サービス信託銀行㈱（信託口）	901	5.02
日本マスタートラスト信託銀行㈱（信託口）	830	4.62
IMASEN取引先持株会	773	4.30
ヤマハ発動機㈱	613	3.41
㈱三菱東京ＵＦＪ銀行	605	3.36
今仙電機従業員持株会	542	3.02
㈱第三銀行	505	2.81
第一生命保険㈱	426	2.37
日本トラスティ・サービス信託銀行㈱（中央三井）	417	2.32

㈱ 持株比率は自己株式（215千株）を控除して計算しております。

■所有者別分布状況



■配当金の推移